

積年の山旅

古い地形図の平家岳、左門岳、屏風山にマークをつけたまま30年がたった。近年、私にとって、残雪の加越や越美国境は山スキーのエリアであるが、平日に休暇をとり伊田と歩いて三山を縦走する計画を立てた。ところが、天気が悪く週末に延期したが、相変わらず予報はすっきりしない。みすみす長期休暇をつぶすのもストレスがたまる。Iさんも長期休暇中だ。せめて、平家岳だけでもと決行したが、ひょっとして麓で温泉と酒三昧になるかもしれない。

3/28 昼の3時に京都でIさんを拾い白鳥に車を飛ばす。途中、予報通りの雨になる。高速を降りて、九頭竜湖に着き、平家岳へ行く箱ヶ瀬橋を確認する。Aさんの教えてくれた通り、まだ通行止めだった。湖畔で幕営の予定だったが、雨の中のテントはきつい。さて今夜の宴会は、予め調べておいた道の駅まで行こう。ワイパーにみぞれが付きだした。道の駅はJR九頭竜湖駅と隣接していた。冷たい雨が降る中、常設の大型テントの中で鍋をつつく。寒すぎていくら飲んでも酔わない。駅舎は快適なねぐらになりそうだが、昨今、駅舎での仮眠はご法度になったようで、終電が行くと鍵をかけられた。仕方なく車で寝る。

思わぬ新雪と吹雪き

3/29 朝、雨は止んだものの空は重い。とりあえず朝食を済ませ登山準備をして、車を箱ヶ瀬橋に移動する。除雪されているのにゲートが閉まっている。登山口まで7キロとある。2時間のアルバイトである。7:30湖畔を歩き出す。面谷の林道に入ると雪が出てきた。徐々に雪が増え、わかんを付けたいところだが我慢する。面谷は鉾山跡で盛衰の歴史が碑に刻まれていた。ようやく谷の分岐、登山口の標識があった。わかんをつけて、右俣沿いに行く。昨夜に降った雪が白い。この時期は雪さえあれば、どこの尾根に取り付いてもいいが、とりあえず、夏道のある尾根に行く。春の新雪はわかんにもへばりつき団子になる。思ったより時間がかかり稜線に出たのは昼過ぎだった。

稜線の鉄塔が越美の山奥の感じを半減させる。ここからは平家岳まで高圧線沿いに歩くことになる。やがて雪がちらつき、そのうち吹雪きだした。気温は低くないが、視界がだんだん効かなくなった。少しでも平家岳に近付いておきた



いが、早目に樹林の中の雪上にテントを張る。まだ14時だった。

雪を融かして水作る以外にすることはない。担ぎ上げたビールと焼酎もあつという間になくなり、レトルトの夕食を済ますが、まだ18時前だ。Iさんは酔ってうたた寝をしている。もう寝袋に入るしかないが、長い夜だ。何度目がさめても日付は変わっていなかった。星が見えたが、明日はどうだろう。

絶景と絶好のゲレンデ

3 / 30 5:30に起きて食事を済ます。朝焼けだが視界はよい。とりあえず空身で平家岳まで行こう。昨日は新雪に潜って、時間が読めなかったが、今朝は雪が締まりわかかんがきいた。平家岳が間近に見えてきた。1時間もすれば着きそうだ。頂上付近は山スキーのゲレンデ状態だった。360度見渡せる。北ア、乗鞍、白山連峰、荒島岳、能郷白山、...。Aさんなら見える山を全部言い当てるだろう。



今回、縦走予定だった左門岳、屏風山も確認できた。やっぱり長いなあ。引き返すしかないがこのまま同じトレースを取るのには能がない。わずかだが北の尾根をいったん谷に下り



て登り返してテント場に戻った。雪さえあればどこでも道を作れる。春山だけの楽しみだ。まだ昼前だが、もう天気は怪しくなってきた。テントをたたみ、今度は直接面谷に落ちる尾根を下ることにする。時々地図を見ながら面谷への尾根を確かめる。谷に下りると雪解けでトラバースを強いられる。これもルートを読む楽しみである。安全圏に出たと思ったら、昨日のトレースと出会った。登山口でわかんをはずして、谷の水

を汲んでコーヒーを沸かす。ここからはふきのとうを摘みながら長い林道を下った。雨がぱらつきだした。湖畔の道も長かった。14:00に車に着くと本降りになった。朝日で風呂に入り、大野でそばを食う。

20時に帰宅して、ふきのとうのてんぷらと大野で買った青豆の豆腐でビールを飲む。翌日にはふき味噌を作った。これもうまくできて好評だった。